



岡田

学校教育目標

10年間を見通した確かな学力と
豊かな人間性の育成

目指す子ども

ふるさ加佐を愛し 夢 未来に向かって歩み続ける子ども
~笑顔で いきき 自分から~

平成30年2月1日

舞鶴市立岡田小学校
学校だより No.12

<http://okada-es.maizuru.ed.jp>

生き抜く「力」を育てる

1月後半から、本校においてもインフルエンザ等が流行し始め、あっという間に猛威を振るい、全学年に広まりました。そのため、授業参観や作品展等を延期せざるを得なくなり、保護者の方々にも大変ご迷惑をおかけしました。まだまだ寒い折、今後も引き続き予防や対策をとっていきたいと思います。



【大きな口を開けて雪を食べる1年生】

早いもので、もう2月に入ります。あわただしい3学期の中でも、特に短く感じる2月です。2月には「新1年生体験入学」や「6年生を送る会」等1年間を締めくくる様々な行事や取組を行います。その中で、一人一人の子どもたちが、毎日めあてを持って生活して、新しい学年への心の準備をするとともに、子どもたちがいつも自分の精いっぱい行動をとることができる力を育てたいと思っています。

話は変わりますが、1月17日、6,434人が亡くなった阪神淡路大震災発生から23年が経ちました。また、3月11日には東日本大震災発生から7年になります。このような大きな災害はそう起こるものではありませんが、これからの子どもたちは、今よりもっと荒々しい自然の中を生きていくのではないかと感じます。どんなことが起こるか分からない世の中を生きる子どもたちには、その時その時、自分が持ち得る精いっぱいの知恵を使って、精いっぱいの行動をとる力を付けてほしいと願うのです。

『平成23年3月11日午後2時46分、運動場でクラブ活動をしていた釜石東中学校の生徒は「津波が来るぞ。逃げるぞ。」と大声を張り上げて、そのまま隣の鶴住居小学校まで走った。そして、小学校の校舎の下から、「おーい、津波が来るぞ。降りて来い。」と声をかけて、高台に向かって走り出した。その姿を見た他の中学生や小学生が、一度避難していた校舎の3階から次々と降りてきて一緒に逃げ始めた。高台までは1.7kmも走らなければならない。走って逃げる途中で後ろを振り返って、「ああ、僕の家が…」「うちのおばあちゃんは足が悪いんだ。」「うちには犬がいるんだ。」等と言う子、過呼吸になって青ざめて座り込んでしまう子等がいる中、声をかけ合いながら手を取り合って必死に逃げた。』(群馬大学教授 片田敏孝氏 講演より)

この話については、多くの方々が「釜石の奇跡」の話の一部として知っておられることと思います。1000年に一度と言われるこの大震災では、命の大切さ、弱き者を助けようとする事、地域を知ること、みんなで助け合って生きること等、私たちに大きな教訓を与えてくれました。

実はそれだけではなく、片田氏は、「この地の子どもたちは、何年間も実施している防災教育を通して、目の前に生じた問題を自分の力で解決し、自分の行動で、自分で対応していくことのできる力を育んできた」と言われました。この力こそが、子どもたちが毎日の生活の中で「生き抜く」力であり、時々起こる大きな振る舞いにきちんと向き合うことのできる力であると考えます。

今後、子どもたちが自分で考え、自分で行動する力をさらに身に付けるよう、皆様のご協力ご支援をどうかよろしくお願い申し上げます。



小中一貫で子どもを育てる・⑪
加佐中学校入学説明会

1月28日(日)、保護者の方にお世話になり、6年生が加佐中学校へ入学説明会へ行きました。児童と保護者に分かれて中学校の説明を聞き、制服の採寸を行いました。いよいよ中学校入学が近づいてきました。あと36日で小学校生活が終わります。

校長 羽賀 玲子 教職員一同